

特集

ヴァンからの 鑑賞ガイド

～東西名作のあらすじを4コマ漫画で！



イラストレーション：カワチ・レン

中学校や高等学校での鑑賞は、音楽と他の芸術や文化・歴史とがどのようにかかわり、結び付いているかという点も指導事項の一つとして位置付けられています。

歌舞伎、能楽、文楽、オペラ、ミュージカル、バレエ…。有名な作品であっても、いざ「どんな物語なのか」を説明しようとして困ってしまったことはないでしょうか？

そこで今回は物語の「あらすじ」に着目し、4コマ漫画でご紹介いたします。

各作品のページ下には、「鑑賞実践へのメッセージ」として、その分野に精通された先生方からのコメントを掲載しています。

名作への興味・関心がさらに深まることを期待しつつ、お届けします。

あらすじの表現には多少強引な展開もありますが、「4コマ」ということでご了承ください。

道成寺物 安珍・清姫

日本の舞台のト定番

能、歌舞伎、文楽、組踊など数知れず



いわゆる「道成寺物」は、紀州(和歌山県)の道成寺伝説に基づく安珍・清姫を登場させるもの。およそ18世紀頃からの上演記録が残っている。清姫については寡婦であったり少女であったり、言い伝えによってその立場は異なる。この安珍・清姫の説話からは、能『道成寺』、歌舞伎『京鹿子娘道成寺』、文楽『日高川入相花王』、組踊『執心鐘入』などの他、オペラや映画、フラメンコなど多くの芸能が生まれている。

島田 聡(群馬県立館林女子高等学校)



見どころ満載の華やかな歌舞伎舞踊を支える音楽として、能や文楽の音楽が「乱拍子(謡ガカリ)」や「道行(竹本)」に、さらに流行歌や民謡にも転用されています。このように、歌舞伎がさまざまな音楽や芸能を摂取し成立していることを、歌唱表現を含めた鑑賞の題材構成とすることで理解できると考えます。もちろん、艶やかな衣裳の「引抜き」や小道具、舞台装置などに触れ、総合芸術として味わうことで、生徒の音楽観を広げたいものです。

白鳥の湖 *Swan Lake*

古典バレエといえばこれ!
版がたくさんあるので、見るたびに違います



ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー作曲、1877年初演。その後、数多くの振り付けが生まれた。結末については初演時と同じく悲劇的なものや、ジークフリートが悪魔に打ち勝つハッピーエンドのものもある。また、もともとオデットとオディールは別々のバレリーナが踊る設定であったが、現在は一人二役で演じられることのほうが多い。

高橋辰也 (洗足学園音楽大学)



初演版はさまざまな要因で不評でしたが、チャイコフスキーの死後、振付師プティパとイワノフが手を加え蘇演し、大成功を収めることになりました。このときの演出振付を基礎として、現在さまざまな演出振付版が上演されています。また踊りの伴奏音楽に過ぎなかったバレエ音楽を、優美な旋律や華やかなオーケストレーション、登場人物を表す動機を用いるなどして芸術音楽にまで高めた作品です。組曲だけでなく作品そのものを指導できるよう、バレエに精通してください。

新版歌祭文 野崎村の段

人形が生きた人間の本质を追求する文楽 身を引く女の悲しい決意



近松半二作、1780(安永9)年初演。通称は「野崎村」「お染久松」。油屋の一人娘お染が、嫁入りを前に、恋仲であった丁稚の久松と蔵の中で心中したという実話に基づく。先に発表されていた歌舞伎狂言や浄瑠璃作品に対して「新版」と名付けられたという。お染が詣でた野崎観音は、大坂から約10kmの近郊にありながらも風光明媚なところで、霊験あらたかな観音様がまつられており、当時はかっこうのお出かけスポットだった。

佐藤太一(埼玉大学教育学部附属中学校)



「文楽」を音楽の授業で扱う意味は何か。私は、「義太夫節」の魅力だと思います。義太夫節の音楽の力は、人形に魂を吹き込みます。授業では「魔王」と比較、関連させて扱います。情景や登場人物の心情を表している三味線の魅力、登場人物をどのような声やリズムで語り分けるのか、「詞」「地合」「節」の特徴とそのよさなど、音楽的な特徴を感じ取り味わいながら聴く活動を通して、生徒は文楽の世界に引き込まれていきます。

魔笛 *Die Zauberflöte*

歌と芝居で魅せる！ スペクタクルな世界へようこそ



ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト作曲、1791年初演。当時、オペラがイタリア語で書かれていたのに対して、この「歌sing」「芝居spiel」はドイツ語で演じられ、その派手な舞台は大衆にたいへん人気だった。「夜の女王のアリア(復讐の炎は地獄のように我が心に燃え)」は有名なアリアの一つだが、夜の女王がコロラトゥーラの超絶技巧を発揮する箇所では「ザラストロを殺さないのなら、もはやお前は私の娘ではない」と高らかに歌っている。

松井孝夫 (聖徳大学)

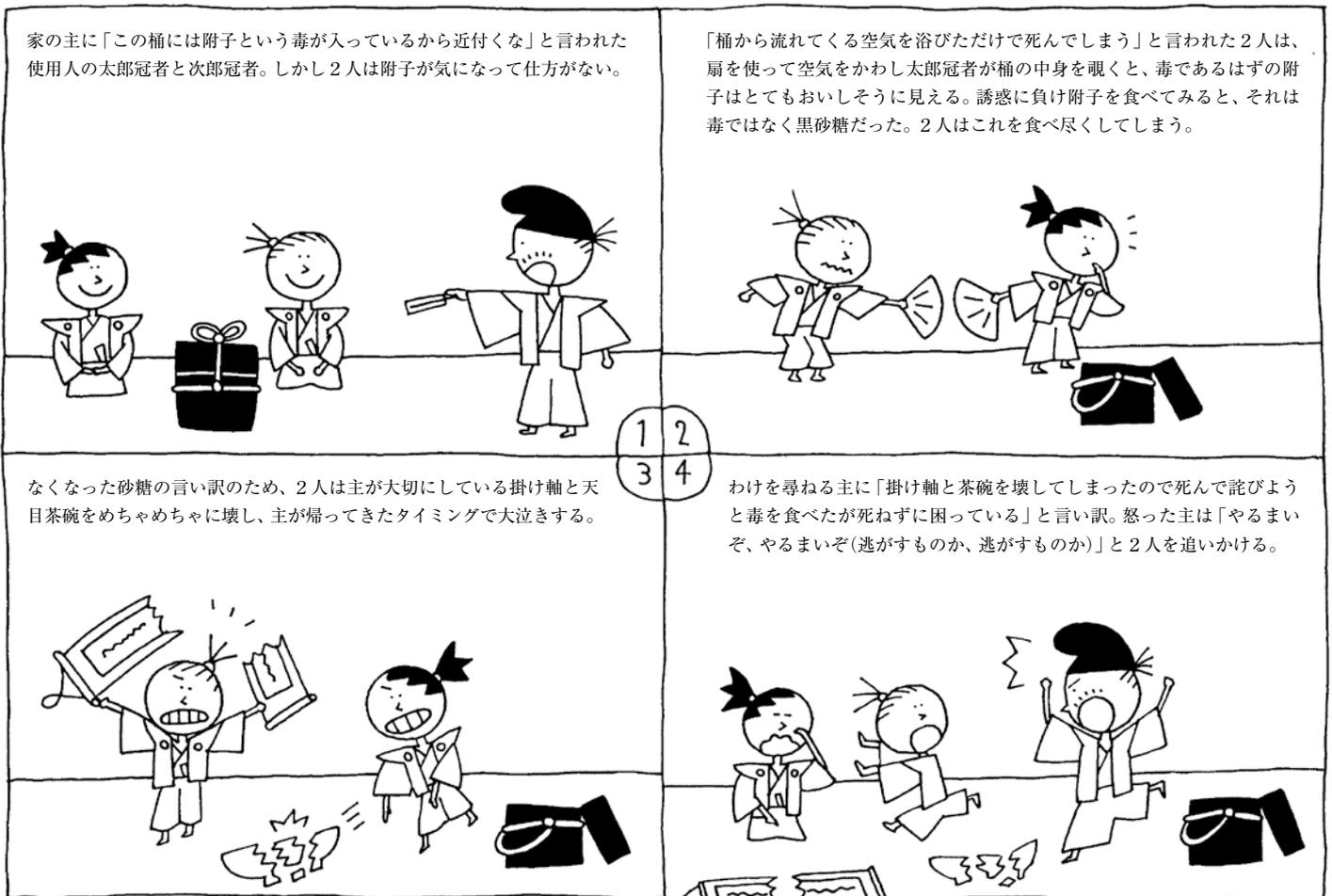


『魔笛』の魅力はズバリ、「おとぎ話」のような展開で「ハッピーエンド」にたどり着き、愛にあふれているところです。大人も子どもも楽しめる「ファンタジーの王道」といえるのではないのでしょうか。さまざまな人間模様が、多彩な登場人物の歌う音楽によって絶妙に表現されています。いろいろなキャラクターが醸し出すアリアや重唱などを楽しむことができます。「おいらは鳥刺し」「パパパの二重唱」「夜の女王のアリア」などを聴いて、自分の好きな音楽を見つけてください。

附子

狂言は笑って観る！

描かれているのは普遍的な人間の姿



附子(ぶし)とはトリカブトの根からつくる漢方薬であるが、毒矢などに使用される猛毒でもある。狂言『附子(ぶす)』は、もともと鎌倉時代の仏教説話集に原型がある作品で、ケチな和尚さんと小僧さんが登場する物語である。一休咄、つまり「一休さん」の中にも同様の説話が見られる。実際、狂言が発展しつつあった室町時代において、砂糖や掛け軸、天目茶碗は高価なものだった。(実際の狂言の舞台では、掛け軸や茶碗は使用しません。)

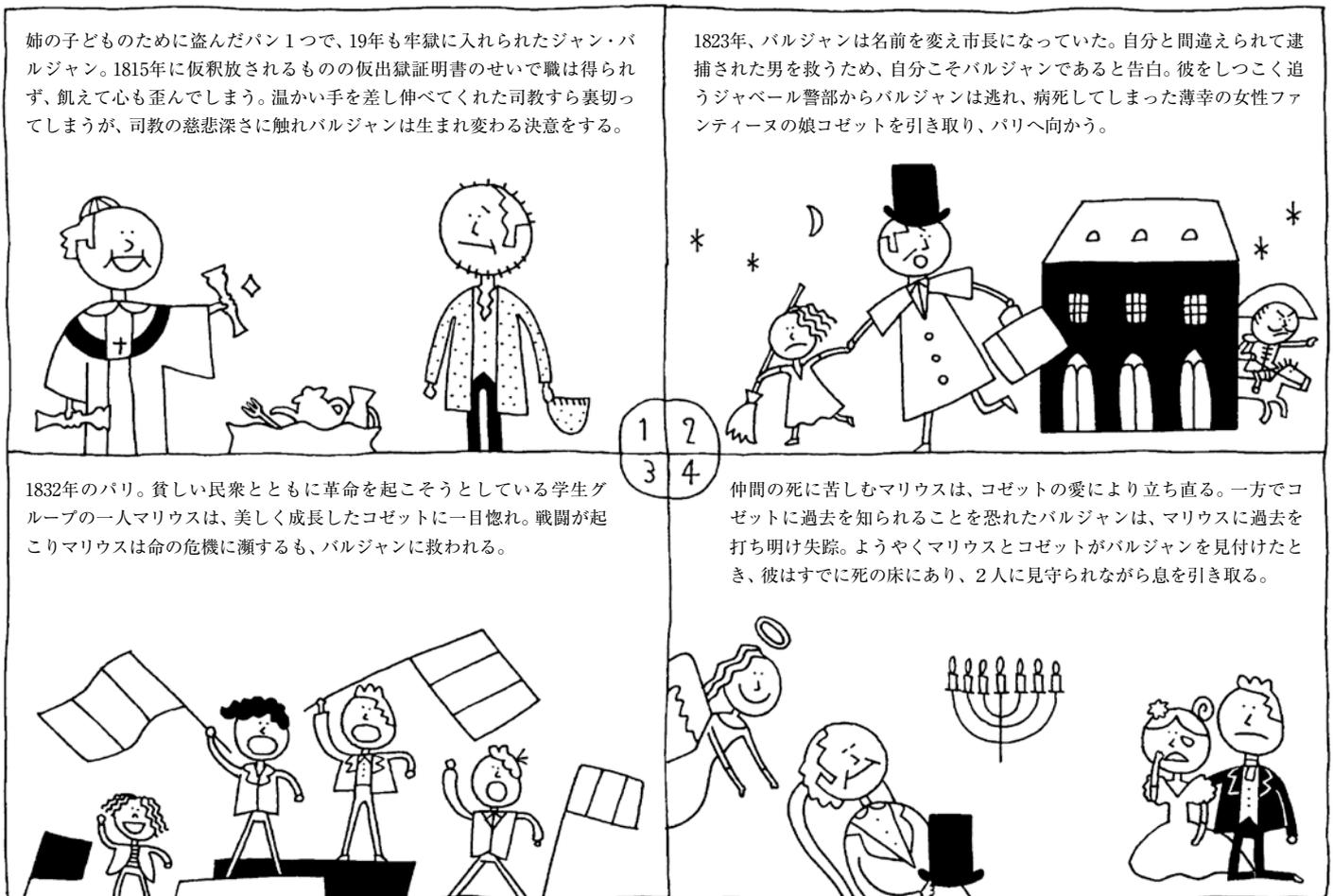
江田 司(名古屋学院大学)



何と言っても太郎冠者と次郎冠者の掛け合い「扇(あお)げ、扇げ!」「扇ぐぞ、扇ぐぞ!」が見処聴き処!! 「そりゃ」「見たぞ」を挟み、一つの流れに乗って繰り返される。テンポも上がる。これぞ“序破急”(野村萬斎談)。

レ・ミゼラブル *Les Misérables*

ミュージカル巨編！ ある男の一生



原作は1862年にヴィクトル・ユゴーが執筆した長編小説『Les Misérables ああ無情』。ミュージカルのオリジナル脚本はアラン・ブーブリルと、クロード＝ミシェル・シェーンベルク（作曲も）による。1980年にコンセプトアルバム『Les Misérables』が発表された後、パリで『レ・ミゼラブル』の前身となる作品が上演された。現在の作品はこの改訂版で、1985年にロンドンで初演された。このコンビによる他の作品には『ミス・サイゴン』がある。

河合神和（静岡県立清流館高等学校）



『レ・ミゼラブル』の音楽の魅力は、メロディーが美しく親しみやすいこと。同じメロディーが物語のさまざまな場面に配置されていて、それぞれの雰囲気の違いを聴き比べるのも、この作品の楽しみ方の一つです。ミュージカルでは、音楽に込められた感情やメッセージをより鮮明に表現するために、歌手たちが独特の発声をしたり、メロディーやリズムを変えて歌い回しを工夫したりすることもあるので、こうしたミュージカル特有の歌唱表現にも注目して授業を展開します。